

B 6世紀以降、中央アジアの草原地帯でトルコ系民族の活動が活発化した。モンゴル高原に興
起した突厥はバイカル湖からヴォルガ川にいたる草原の道を支配し、東方では中国の北朝や
隋・唐帝国、d 五代の時代にまで関わりをもち、西方でも e ササン朝と同盟してエフタルを滅
ぼし、ビザンツ帝国とも交流した。突厥を滅ぼした f ウイグルは、建国して間もない頃から唐
帝国と深く関わりをもち、大きな利益を得ていた。ウイグルは840年にキルギス人の急襲を受
け四散したが、トルコ系諸族は移動や離合集散を経ながらアム川流域からパミール以東までを
含む地域に拡散して、トルキスタン（「トルコ人の土地」の意）を形成した。その過程で遊牧
生活からオアシスに定住を始め、イスラーム教に改宗していった。なお、突厥やウイグルなど
遊牧国家と結び、交易に従事した g ソグド商人たちは、中央アジアの貿易を独占し、さらに西
方世界とも交流するなどその商業的活動圏を東西に拡大した。

設問4 下線dに関する説明で、誤っているものはどれか。

- ① 後梁の建国者朱全忠はもと黄巢の部下で、のちに唐に降って節度使に任じられた人物である。
- ② 後唐は突厥出身の李存勖が建国し、洛陽に都を置いた五代で唯一の王朝である。
- ③ 後晋は建国に際し協力を受けた遼（契丹）に臣礼をとった。
- ④ 後周の武宗は五代一の名君とされ、「三武一宗の法難」のうちの3番目の廃仏を行った。

設問5 下線eに関連して、エフタルが滅ぼされた6世紀中頃のササン朝と東ローマ帝国に関する事柄で、正しいものはどれか。

- ① ササン朝ではノミスマ金貨を基軸通貨とし、東方との交易を活発に行っていた。
- ② ビザンツ帝国では、東方より蚕卵が伝えられ、絹織物の生産が始まった。
- ③ 軍管区制を採用したユスティニアヌス帝は、ホスロー2世の率いる軍を撃破した。
- ④ ビザンツ帝国では、プロノイア制と呼ばれる土地制度が施行された。

設問6 下線fの関わりは、ある事件を契機として生まれたが、その説明として正しいものはどれか。

- ① 王朝による儒教の復古主義思想に基づく政策などが原因で起こった農民反乱。
- ② 呪術による治病を説いた太平道と呼ばれる宗教結社を母体にした農民反乱。
- ③ 政府による専売強化や飢饉による社会不安を背景に、塩の密売人が起こした反乱。
- ④ 平盧・范陽・河東の3節度使を兼ね、河北の実権を握った人物が起こした反乱。

設問7 下線gのソグド商人の交易活動の拠点となったサマルカンドの中国名はどれか。

- ① 龜茲
- ② 于闐
- ③ 康国
- ④ 疏勒